

教育目標	
未来に心豊かにたくましく生きる子どもの育成	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し やってみたい遊びをみつけ、自分の思いを出しながら友達と遊ぶ姿が見られ、自信を持って生活する子どもが多いが、まだ十分でない子どももいる。一人一人が教師や友達との安定した関係のもと、いろいろな遊びを楽しみ、工夫したり目的をもったりして遊び続ける教師の援助と環境構成の在り方が課題である。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 園で子どもたちが落ち着いて生活する姿が見られ、日常の送迎時に子どもの成長が感じられ、うれしく思う。今年は保護者同士のコミュニケーションをとる機会が少なく、特に違うクラスの保護者とはかかわりが少なかった。どんな子どもがクラスにいて、どんな遊びをしているのか、どんな保護者がいるのか、ということがわかるのが公立幼稚園の良さである。感染症対策をしながら、参観や懇談の場を設け保護者同士のコミュニケーションが図れるようにすることが課題である。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和2年10月26日	学校運営協議会理事
最終評価	令和3年3月10日	学校運営協議会理事

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組 - 一人一人の子どもの安定感を育み、信頼関係を築く、温かな学級経営を行う。 - 子ども自らが環境にかかわり、友達とともに遊びが進められるような、教材の選択、配置の仕方を研修する。 - 共同機構研修会で公開保育を行い、小学校、大学、民間の幼稚園などの意見を聞き、教員の資質向上の機会とする。
（取組結果を検証する）各種指標 - 研究保育、エピソード研修を継続的に行い、安定感を育み、自己発揮するための教師の援助や環境構成の在り方を探る園内研究の実施 - 週案を活用して、指導計画を見直す園内研究の実施 - 個に応じた関わりをするために、専門機関との連携 - 保護者アンケート項目「子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（遊びに向かう力）を身に付けていること」の回答

中間評価

	各種指標結果 ・園内研修は、研究保育を2回、エピソード研修を3回行った。研究保育には小学校の幼小連携主にも声をかけ、幼児の実態と幼稚園教育について見てもらう機会とした。また、総合育成支援課のスーパーバイザーによるコンサルテーションを行った。 ・療育機関に8月下旬に担任が出向き、参観と懇談を行い、子どもの情報を共有した。9月初めに療育の担当者が対象児の園での様子を見に来られ、幼児理解に努めた。 ・保護者アンケート「子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（遊びに向かう力）を身に付けていること」の回答は80%の保護者が「あてはまる」と回答した。
自己評価	分析（成果と課題） ・研究保育では、環境の構成、幼児理解について話し合った。エピソード研では、遊びこむ姿のらえについて話し合ったり、子どもの内面を読み取る教師の役割の重要性を確認したりできた。 ・療育の担当者の目から幼稚園を見ると、環境の刺激が多いので、指示をするときは一つ、それができるまで見届け認めることの繰り返しが有効であると教えていただいた。 ・保護者は子どもが幼稚園でいきいき、のびのびと遊び、家でも「早く幼稚園に行きたい」とうほど、園生活が楽しめていることを感じてられることがわかった。 分析を踏まえた取組の改善 ・研究保育とエピソード研は今後も続けて、子どもの内面を読み取る努力をし、安定感をもち、自信をもって園生活が送れる指導について考えたい。 ・療育の担当者という専門家の意見は、個別の支援に生かしていきたい。 ・一人一人の子どもが幼稚園が好きで、充実して生活できるように、子どもの育ちを保護者に伝え、家庭と連携する。 （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・研究保育、エピソード研修を継続的にを行い、安定感を育み、自己発揮するための教師の援助や環境構成の在り方を探る園内研究の実施 ・専門機関との連携 ・保護者アンケート項目「子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（遊びに向かう力）を身に付けていること」の回答
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・子どもたちが幼稚園が好きで、のびのびと遊べるように、研修を続けてほしい。 ・療育の様子を担当が参観することは、連携ができていてうれしい。

最終評価

	（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・研究保育は各クラス1回計3回、エピソード研修は3回行った。今年は大学の准教授にエピソードを通して、テーマのとらえ方や教師の願いについて指導を受けることができた。 ・療育機関の担当者に聞いたその子への援助の仕方を続いて実践し、幼児理解に努めた。 ・保護者アンケート項目「子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（遊びに向かう力）を身に付けていること」について、86%の保護者が「あてはまる」と回答した。
--	---

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・教師から見ると淡い、小さなことでも自己発揮の姿ととらえ、「もっと、もっと」と焦らずかわり、子どもによって思いの出し方は違うこと、ペースも違うことを学んだ。 ・総合育成支援に関する園内研修で、個の変容の姿を教職員で共通理解した。 ・アンケートの回答が前期よりA「当てはまる」という評価が6%増えていることから、保護者も、前期と比べて主体的に遊んでいると感じていることが分かった。
	分析を踏まえた取組の改善 ・エピソード研修は講師と対話する過程でさまざまな気づき、新たな見方があった。自分たちで読み取り、深めて学べるように、エピソード研修を積み重ねたい。 ・療育機関とは、子どもに適した支援を行うために今後も連携を行う。 ・子どもが夢中になって遊ぶ姿を発信し、どのような育ちがあるのか、発信する力量を付けたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・1年間の成長を感じるとともに、「ほんとに進級できるの」と思う面がある。懇談会などで園と子どもの姿を共有し、成長を見守りたい。

（２）幼小連携・接続に関して

具体的な取組 ・人権教育を視点にした参観の事前、事後の研修会を行い、ねらいや子どもの姿について共通理解を図る。 ・保幼小交流の年間計画を立てて、実施し、子どもの姿の変容を確認する。
（取組結果を検証する）各種指標 ・公開保育、授業参観の実施、および、事前事後の研修会の実施 ・「親子で絵本」（読書ノート）の活用 ・保護者アンケート項目「園は、小学校への円滑な接続に向けての取組を進めていること」の回答

中間評価

各種指標結果	
・幼稚園の公開保育に1回、幼稚園教育課程理解推進事業の研修に、小学校の教員に参加を呼びかけ、一緒に研修した。また、小学校の同和教育研究会に幼稚園教員が参加した。 ・読書ノートの活用の仕方を見直すなどの取組を行い、京都市子どもの読書活動優秀賞実践団体表彰を受けることになった。 ・保護者アンケート項目「園は、小学校への円滑な接続に向けての取組を進めていること」の回答は70%が「当てはまる」と回答。	
自己評価	分析（成果と課題）
	・幼稚園教育の発信のため、小学校教員に幼稚園の研修の参加を呼び掛けているが、毎回、参加して下さる。同じ先生が参加され、理解が図れているが、他の教員にも参加していただきたい。 ・読書ノートがこれまで生かされていなかったもので、毎月担任が記入状況をチェックすることにした。幼稚園が読み聞かせを大事にしていることが少しずつ伝わってきたと思われる。
	分析を踏まえた取組の改善
	・幼稚園の研修にいろいろな先生が参加できるように、時間帯や内容を工夫する。

	・「親子で絵本」（読書ノート）の活用の継続
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・人権教育の授業参観，保幼小交流の実施 ・保護者アンケート項目「園・家庭・地域が連携して，子どもを育もうとすること」，「園では読書活動の推進に向け，親子読書をすすめていること」の回答
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・今年はコロナの影響で子どもの幼小交流ができていないのは残念であるが，感染状況を見て，実施して幼稚園の子どもたちが進学に期待感を持てるようになってほしい。

最終評価

	（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・小学校6年生の授業参観を行い，人権教育の指導の様子を見せてもらった。保幼小交流はDVDを交換して3月初めに実施した。 ・保護者アンケート項目「園・家庭・地域が連携して，子どもを育もうとすること」について58%の保護者が「あてはまる」，38%の保護者が「ややあてはまる」という回答であった。 ・「園では読書活動の推進に向け，親子読書をすすめていること」について，92%の保護者が「あてはまる」と回答した。
自己評価	分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題 ・年長児が竹田小学校1年生と改進黨所年長児のDVDを視聴したところ，小学生の本園卒園生の名前を呼んだり，絵本の紹介では「（その絵本）知ってる！」と言ったりして，親しみを感じていた。また，保育所での遊びに関心を示したり，施設や遊具の違いに気づいたりしていた。保育所の友達と小学校で会えることが楽しみに思えるようであった。 ・アンケートの回答は前期より厳しい評価（A「当てはまる」評価14%ダウン）であった。感染対策のため，今年度は1度も実際に保幼小交流できなかったことが，このような評価になったと思われる。 ・読書活動についてのアンケートは，前期に比べてよい評価（A「当てはまる」評価6%アップ）となった。親子読書を担任が推進するために，読書ノートをチェックしたり，読書活動や絵本室の環境を表彰されたこともよい評価に結び付いたと思われる。
	分析を踏まえた取組の改善 ・保幼小で実際に交流はできなかったが，子どもたちの日々の様子をDVDに収め，それを交換し視聴して子どもの感想や姿を共有することになっている。DVDを興味深く見る姿，実際に会えなくても進学を楽しみにしている姿などを保護者に発信し，継続していることを知らせたい。 ・保護者のよみきかせへの意識は高まったようであるが，「100冊マラソン」は達成数が全園児の3分の1である。今の取組を継続し，親子の読み聞かせの楽しさを知らせたい。
学校関係者	学校関係者による意見・支援策 ・保幼小で一度も交流できなかったことは残念であるが，DVDを見て小学校への憧れや期待を持ってほしいと思う。

評価	
----	--

(3) 預かり保育に関して

具体的な取組 ・家庭的な雰囲気を作り，子どもが安全，安心に過ごせるようにする。 ・子どもの実態や興味に応じた遊具を選び，楽しく過ごせるようにする。 ・預かり保育の記録を園長や担任が共有し，子どもの姿を把握する。	
(取組結果を検証する) 各種指標 ・預かり保育の参加人数 ・預かり保育の活動や記録に基づいた指導計画の見直し ・アンケート項目「園は，安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」の回答	

中間評価

自己評価	各種指標結果 ・預かり保育の利用者は1学期に比べると9月以降，水曜日以外は増えてきている。 ・預かり保育の記録，子どもの姿を見て，より，楽しく遊べるような遊具を取り入れたり，感染症対策を行ったりしたことを指導計画に入れた。 ・アンケート項目「園は，安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」の回答は「当てはまる」が84%，「やや当てはまる」が14%，「あまりあてはまらない」が2%であった。
	分析（成果と課題） ・幼稚園が再開され，保育時間が長くなり，保護者が預かり保育を利用して自分の時間を確保していると思われる。 ・遊びがより楽しくなる遊具は，変化があり，何度も試して遊べるものである（ラキュー）が消毒することで劣化が早くなった。安全に遊べるような配慮が必要である。 ・預かり保育が何らかの理由で利用しにくい家庭があると思われる。
	分析を踏まえた取組の改善 ・預かり保育は子どもが楽しめるように遊具を考えたり，保護者が利用しやすいように，急な事情もできるだけ受け入れたりしていきたい。 ・赤ちゃんが生まれた家庭など，保護者の様子を察し，預かり保育を利用できることを個別に声をかける。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・預かり保育の参加人数 ・預かり保育の活動や記録に基づいた指導計画の見直し ・アンケート項目「園は，安心安全な預かり保育の運営を行っていること」の回答
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・預かり保育の様子を参観する機会を作ってほしい。子どもたちの様子を見れば，預かり保育時の読み聞かせボランティアも希望者が出てくるとと思われる。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・預かり保育の参加人数はおおよそ４割から６割程度である。３歳児の参加延べ人数が１１月以降、９月・１０月と比べて倍増した。 ・アンケート項目「園は、安心安全な預かり保育の運営を行っていること」について、９４％の保護者が「あてはまる」と回答した。	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・３歳児の参加者が多くなってきたのは、子どもが幼稚園で長い時間遊びたいという気持ちでいることの表れだと思われる。 ・アンケートの回答は前期より１０％もよい評価が増えたことから、預かり保育への安心感が保護者に根付いたことがわかる。
	分析を踏まえた取組の改善 ・子どもが預かり保育の時間を楽しめるように、担当教員と遊具を選び、環境を整えたい。 ・担任との連携（預かり保育での育ち）ができるように、記録を見直したい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・子どもが長い時間友達と楽しく遊べて喜んでいるし、保護者もリフレッシュに使っている。 ・預かり保育での読み聞かせボランティアがなかったので、来年度引き続き募集したい。

（４）子育ての支援に関して

具体的な取組 ・園長や担任が登降園時やほっこり子育てひろばなどで、具体的な子どもの姿について話したり、保護者の困りを把握したりする。 ・地域の児童館、保育所と保護者や子どもの実態などの情報を交換する「ぐんぐん会議」を行い、地域の実態に即した支援を行う。 ・「うさぎ組」「めだか組」で、未就園児保護者同士の交流を図るとともに、園児や教員の様子、園の環境を見てもらい、幼児期に大切なことを発信する。
（取組結果を検証する）各種指標 ・ほっこり子育てひろばの実施回数と参加者数 ・「ぐんぐん会議」の実施回数とその内容 ・保護者アンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」の回答

中間評価

各種指標結果 ・ほっこり子育て広場（ひだまりサロン）は時間を短縮し、保護者の顔合せ程度にするなど内容を変更して、毎月実施した。誕生月の保護者はほぼ全員（のべ２４名）参加した。 ・ぐんぐん会議は３回実施した。コロナ禍での子どもへのかかわり方や環境設定の工夫、行事の取組み方など情報を共有できた。 ・アンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」の回答は「当てはまる」が８４％、「やや当てはまる」が１４％、「あまりあてはまらない」が２％であった。	
自己	分析（成果と課題） ・ひだまりサロンは短時間であるが、「我が子の良さを見つけて、お誕生カードをかく」という

評価	1つのテーマに絞って行っている。それぞれの子どもの良さ、見出す観点が保護者同士で学べていると思われる。また、参加率が高く、子育てについて保護者の関心が高い。 ・ぐんぐん会議は、未就学児とかかわるそれぞれの機関での取組の工夫を学ぶことができた。同じ地域の子どもの様子を広く把握することができる。
	分析を踏まえた取組の改善 ・ひだまりサロンをあと半年続けながら、保護者が子育てのどんなことを知りたいか、話したいかなど探っていく。 ・ぐんぐん会議は地域で就学前の子どもを育てる、核となる会議であり、定期的な情報共有ができることから、継続していきたい。 ・園の子育て支援について保護者はおおむね満足されているが、預かり保育では個別に対応するケースが増えているので、柔軟に対応していく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・ひだまりサロンの実施回数と参加者数 ・「ぐんぐん会議」の実施回数とその内容 ・保護者アンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」の回答
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・療育機関や児童館で、利用者が竹田幼稚園の教育の良さを聞いて、竹田幼稚園が入園の選択肢に上がることもある。保護者の口コミ情報を広げていきたい。

最終評価

自己評価	（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・ひだまりサロンは毎月1回実施し、欠席者は0～1名と、多くの保護者が参加した。 ・保育所、児童館とのぐんぐん会議は年間通して2～3ヵ月に1回実施した。子どもの姿とコロナ対策、来年度の行事について話し合った。 ・保護者アンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」について86%の保護者が「あてはまる」と回答した。
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・ひだまりサロンでは保護者が我が子の良さを再認識したり、先輩の保護者の話が聞ける機会となったりして、楽しく参加されていた。 ・ぐんぐん会議で地域の子どもたちの様子やそれぞれの感染対策を聞くことができたので、情報交換の場としても継続したい。 ・保護者は子育て支援の取組におおむね満足されている。
	分析を踏まえた取組の改善 ・ひだまりサロンの参加率から、保護者の子育てへの意識が高いことがうかがえるので、話しやすい雰囲気づくりをしながら続けたい。 ・ぐんぐん会議では地域の子どもの様子を把握し、また、来年度は交流の機会も予定されているので、幼稚園も積極的に事業に取り組みたい。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・ひだまりサロンのほか、今年はまだできなかった学級懇談会や家庭教育講座で子育ての話ができる機会があればよい。
---------	--

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組 ・学校運営協議会理事に、行事や保育参観を通して子どもの姿を見ていただき、幼稚園の教育方針について発信し、理事の意見をもとに教育課程の見直しを行う。 ・「お茶会」など地域の方々の力を借りて、子どもが園生活をより楽しめるようにする。	
（取組結果を検証する）各種指標 ・園行事や地域との交流についての学校運営協議会での意見 ・保護者アンケート項目「園は、地域と連携した取組を進めていること」の回答	

中間評価

自己評価	各種指標結果 ・学区の団体長会議（自治連合会の各種代表者の集まり）に参加し、幼稚園の教育方針について説明した。また、学校運営協議会の会長、小学校長に運動会を参観していただいた。 ・アンケート項目「園は、地域と連携した取組を進めていること」の回答は「当てはまる」が72%、「やや当てはまる」が28%であった。
	分析（成果と課題） ・地域の団体長の方々に教育方針について発信することができた。運動会での姿を通して、子どもの成長を見ていただくことができた。 ・アンケート結果は肯定的な評価であったが、実施できた行事が今年は少ない。
	分析を踏まえた取組の改善 ・これから行う行事や参観の様子をホームページにアップし、地域や保護者に子どもの成長を発信する。
学校関係者評価	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・園行事や地域との交流についての学校運営協議会での意見 ・ホームページの定期的な更新 ・保護者アンケート項目「園は、地域と連携した取組を進めていること」の回答
	学校関係者による意見・支援策 ・ホームページの更新回数がやや少ないようである。毎日は無理だと思うが、見たいと思っている保護者はいるので、更新の努力をお願いしたい。 ・今年は行事が少なく、アンケートにはその影響が見受けられる。参観の機会を設けて、子どもの様子を発信したらどうか。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・今年度は新型コロナ感染対策のため、従来の園行事や地域との交流はできにくかったことが寂しく感じるという意見が理事や保護者から聞かれた。	
---	--

	・ホームページの定期的な子どもの姿の発信に加え、毎月の保健指導の様子をアップするようにした。 ・保護者アンケート項目「園は、地域と連携した取組を進めていること」について、58%が「当てはまる」、「やや当てはまる」が38%という回答であった。
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・行事は感染対策をしながらできる内容にして、保幼小交流はビデオレターのDVDを交換するなど、形を変えて経験できるように工夫した。 ・ホームページの更新が前期よりできていないという教職員の反省が聞かれた。 ・アンケートでもA「当てはまる」という評価がアンケート項目の中で1番少なく、交流や行事が少なかったことの評価が表れていると考えられる。 分析を踏まえた取組の改善 ・行事や交流は形を変えて行ったこと、そこでの子どもの育ちをその都度発信する。 ・ホームページの更新は週に1回程度努力したい。 ・園外保育は歩いて行ける地域の公園に出かけるなど、地域の資源を見直し活用したい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・親子お茶会や保幼小交流ができなかったのは残念であるが、散歩で地域の公園に出かけて体を動かすことを楽しむ経験ができたことはよかった。

（６）教職員の働き方改革について

重点目標
教員が笑顔で子どもと向き合えるように、見通しを持って仕事をし、個々の教員の生活の質を高める。
具体的な取組
・職員会議の開始と終了時刻を決めて守る。 ・教頭、教員が休業期間中に年休を昨年より1日以上多く取得する。
（取組結果を検証する）各種指標
・職員会議にかかる時間 ・教頭、教員の年休取得日数。

中間評価

各種指標結果
・職員会議にかかる時間は40分から1時間ほどであった。 ・今年は春の休業期間中に新型コロナウイルス感染防止のための、在宅勤務制度があり、ほぼ全教職員がその制度を利用した。夏季休業中の年休取得日数は、昨年度と変わらなかった。
自己評価
分析（成果と課題） ・職員会議の前に、担任会を行い、教員がおおむね行事予定を組み、内容を検討しておくことで、職員会議が比較的短時間で済んでいる。 ・夏季休業中の年休は、お盆前後に取得されていて、夏季休暇と合わせると続けて10日間ほど休暇が取れていた。

	分析を踏まえた取組の改善 ・担任会は職員会議をスムーズに進めるにあたり、有効な方法である。ここで時間がかかるが、ねらいや内容をしっかり話し合うことができ、教員が意欲的に考えることができる機会となっているので、続けていく。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・職員会議にかかる時間 ・教頭、教員の年休取得日数
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・先生たちが遅くまで仕事をしているように思う。午後6時以降は電話をしないなど、決められたことは守っていききたい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ・定例の行事予定の職員会議は30分以内に終了した。 ・年休取得日数について、教頭は昨年度より1日減っているが、教諭は5日増えている。	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・職員会議の時間が短くなったのは、毎月担任会をしてあらかじめ決定しているからであると思われる。 ・休業期間があったため、教諭は年休が取得しやすかったと思われる。
	分析を踏まえた取組の改善 ・担任会で各学年の保育のねらいを共有し、行事計画を立てることが、職員会の時間縮減につながっているので、今後も継続する。 ・長期休業期間中など、年休が取得しやすい期間に、できるだけ教頭も年休を取るよう進めたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・緊急でないときは、午後6時以降電話をしないということをはじめ、他の約束事も守れるように声をかけたい。